みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Comparative Analyses : Results : Delivery and Growth 3100

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 廣子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003689

出産・成長　3100

横　山　廣　子*

1.　出産における慣習　　2.　成年段階における慣習

この大項目は，出産関係の4項目と，成年段階に達したことを示す慣習の6項目にわけられる。テクノニミー（3105）は，出産を契機としており，また父親や母親のステータスが孫の誕生によって祖父母のそれへと移行することも明示するが，第一義的には，結婚した男女が父あるいは母となり，その意味で一人前になったことを示すものといえる。そこで集団的成年式（3109）などの5項目とともに後者グループに入れて考えることが妥当であろう。

1.　出産における慣習

出産関係の4項目では，まず，坐産（3101）と竹刀（3102）の相関がきわめて高いことに気がつく。すなわち，両項目のデータのそろっている62民族のうち，両方とも存在するのは44民族，両方とも存在しないのは6民族で，これはあわせて80%近くを占めることになる。この傾向は1985年の中間報告時から変わっていない。坐産と竹刀の分布はアッサムから東南アジア大陸部の山地，ニューギニア，メラネシア，ミクロネシア，台湾などにとくに集中している。坐産が67民族で見られるのにたいし，竹刀は82民族で確認されており，より広範な分布を示している。竹刀はあるが坐産はない民族は，大スンダ列島の民族，とりわけ Javanese や Makassarese などイスラムの高文化の影響をうけたいわゆる「新マレー」の民族に比較的多い。これは元来あった坐産がのちに喪失したと考えられるのではないか。一方，坐産はあるが竹刀のない民族が Easter, Maori など東部ポリネシアのなかでも遅れて移民がおこなわれたとされる民族に多い。坐産と竹刀はネグリートやオーストロアジア，オーストロネシア，シナ・チベットの各言語系統に広く分布し，しかも古い文化要素を比較的多く残して

* 東洋英和女学院大学人文学部

いるといわれる民族に存在することから考えて，東南アジアおよびオセアニアの古い文化層に属するものと思われる。

産婦加熱（3104）は上述2項目間ほどではないが，坐産および竹刀と相関性のある分布をみせる。中間報告時はオセアニアのデータ入力が少なく，分布が「インドネシア以西」に限られていたが，今回の結果からはポリネシアにまでおよぶことが明らかになった。しかし，島嶼部のうち，台湾，フィリピンは Bukidnon に唯一認められるのみで，オセアニア地域では分布が拡散的かつ希薄である。また，Burmese, Siamese, Cambodian といった大陸部の高文化諸民族にも存在する一方で，マダガスカルにおける分布密度が坐産や竹刀よりも若干高い。これらはいかに解釈すべきであろうか。一つの解釈として，オーストロネシア語系民族が台湾，フィリピンからインドネシア領域に進出したのちに，この慣習が東南アジア大陸部方面から南進をし，西はマダガスカルへ，東はオセアニアへと広がったと考えることができる。それは，つまり，坐産や竹刀と比べると，産婦加熱のほうが新しい文化の波において伝播したことを意味する。

擬娩（3103）が確認されているのは全部で九つの民族のみである。しかし，その居住地は分散しており，言語系統的にも多様である。注目されるのは，モン＝クメール語系の Nicobarese, Senoi, さらに Laos Thai Miao, Yap というように，他の言語系統の民族よりも早くから当地に居住していたとみられる民族や，後続の民族の進出によって孤立化した民族，あるいは言語接触の複雑さゆえか言語系統的にまだ十分に解明されていない民族に，この慣習が報告されていることである。9民族すべてにヤムイモ栽培（1303），8民族にタロイモ栽培（1301），婚資（3204），7民族にブタ飼育（1321），槍（2815），6民族に掘棒（1313），ニワトリ飼育（1320），キンマ嚙み（1404），シングルアウトリガー・カヌー（1703），腰みの（2307）などが共通してみられ，擬娩の慣習の背景となっている社会の輪郭が浮かびあがってくるように思われる。また，擬娩とその他の出産関係の項目との相関は見られない。本大項目中では，9民族中，4民族にみいだせる若者宿（3107）との共存の度合いがもっとも高い。

2. 成年段階における慣習

成年段階の諸慣習のなかでは若者宿と集団的成年式（3109）の分布の一致がもっとも著しい。両項目のデータのある64民族に関して見ると，両方が存在する民族は26，両方とも存在しない民族は25で，合わせて約80％である。この両項目は男の家（2115）

や年齢階梯制（3413）とも高い相関性を示し，一般に男性の連帯が強調される傾向のあるニューギニア・メラネシア地域にもっとも分布が集中しているのもうなずける。若者宿と集団的成年式はアッサム・ビルマ地域にも比較的多く分布するが，こちらでは集団的成年式よりも若者宿の存在が突出している。中間報告で指摘されている，ナガ系諸族における防御組織の発展などに見られる集落組織の強さと若者宿の結びつきは，たしかに認められる。

またとくにアッサムを中心とするチベット＝ビルマ語系諸族の特徴は，それが娘宿（3108）もともなう場合が多いことである。一般に若者宿が存在する民族には，かならずしも娘宿が存在するとは限らず，若者宿のある55民族中，12民族においてのみ娘宿がみられる。一方，娘宿は全部で16民族においてしか確認されておらず，娘宿のある場合の75％は若者宿との共存である。そして若者宿と娘宿が共存する12民族のうち，チベット＝ビルマ語系は7を数える。さらに，残る5民族はポリネシア地域が3民族に Sumbanese, Bontok Igorot となっている。

ここにおいて，若者宿・娘宿とハイネ＝ゲルデルン（Heine-Geldern, R.）のとなえる巨石文化複合との関連を考えざるをえない［ハイネ＝ゲルデルン　1961］。勲功祭宴（4211）と巨石記念物（4212）は若者宿および娘宿のある12民族のなかで，それぞれ5民族と8民族に存在する。単なる偶然の一致とかたづけてしまいにくい。中間報告においては，テクノニミー（3105）と巨石文化との関連の可能性が提起された。本研究のデータによると，数字的には，さらに若者宿・娘宿と巨石記念物の相関のほうが著しい。若者宿や娘宿の存在は世代的社会秩序と結びつきやすいようにおもわれる。テクノニミーは，子にたいする親のステータスを尺度の基準とする世代秩序であり，勲功祭宴は勲功による世代的秩序の上積みと考えられないであろうか。

また，このように考えると，若者宿・娘宿とテクノニミーとの間にもなんらかの相関性が認められてもよいはずだが，本研究のデータによれば，むしろ相関性は低い。若者宿とテクノニミーに関する情報がそろっている44民族において，両方とも存在するのは9民族，両方とも存在しないのは10民族である。娘宿とテクノニミーに関しては，35民族のうち，共存するのが3民族，両方存在しないのが15民族である（ただし，テクノニミーに関してはその存在が十分にデータとしてとらえきれていないことを感じる。たとえば中国南部の多くの民族やタイ語系民族にテクノニミーがあるはずだが，それらはデータ化されていない。これは使用した資料の問題がある。今回のような研究においては常に資料の限界性の問題がつきまとうのはいたしかたないが，それでも資料の収集および選定に関して改善点はなかったか，という反省点は残る。）若者宿・

娘宿とテクノニミーは，両者ともたしかに世代的秩序との関係が考えられるが，一方は集団的な性格をもち，他方は個別的・個人的である。この違いが両者の分布のずれをもたらす一つの要因と考えるならば，テクノニミーと集団的成年式の分布の不一致も同様の要因によって説明することができよう。

テクノニミーの分布と若者宿および集団的成年式の分布はかなり対照的である。後者の分布をながめると，分布の空白あるいは希薄な地域としてマレー半島から大スンダ列島，そしてマダガスカルを，密集地域としてニューギニア・メラネシアをあげることができる。これらの地域はテクノニミーの分布に関してほぼ逆の状況を呈している。また，東南アジア大陸部ではモン＝クメール語系民族に集団的成年式が多いという特徴がみられ，タイ語系にはない。そして，本研究ではデータがよくひろえていないが，テクノニミーはタイ語系諸族には顕著にみられる。ただし，注意しなければならないのは，両者が互いにまったく相いれない文化要素というのではない点である。両者は一面において補完的性格をもつゆえ，補完的分布状況を示しやすいといえよう。

中間報告においてはマレーから大スンダ列島にいたる東南アジア島嶼部西部の集団的成年式の欠如の原因として，イスラム文化の影響が考えられると述べられた。イスラム文化の流入以前に同地域にも集団的成年式があったならば，イスラム化によってそれが消失した可能性はおおいにあろう。（ただし，Malay に集団的成年式があるというデータは，集団的におこなわれる男子の割礼をそれとみなしたものと思われる。そして，ここではイスラム教と集団的な割礼式との結びつきがある。）しかしながら，大スンダ列島においては，イスラム文化の影響が少ないとおもわれる民族もふくめて，おしなべて集団的成年式の存在が確認されておらず，高文化以前の文化複合の問題を考える必要がある。

今のところ，集団成年式を含む，より古い文化複合と，それのない，より新しい文化複合というものを考えることができる。後者の担い手は大陸部の場合，双系出自を認め，集団的組織があまり発達していないタイ語系民族をその代表とすることができる。島嶼部においてはいかに考えるべきであろうか。

嚥下モチーフ（3110）はわずかに4民族において確認されたにすぎず，統計的に相関性を論じるにはデータが少なすぎる。しかし，その分布領域は予想された通り，集団的成人式のもっとも集中しているセラム島からニューギニア，メラネシアにある。

初経時の幽閉（3106）が認められるのは，中間報告時の4民族から21民族にふえた。分布図からは，この慣習の分布が著しいのはミクロネシアからニューギニア北岸地域といえる。大陸部では Andamanese と Cambodian に認められるのみで，両者とも

古い文化要素を残している可能性がある。アッサムにおいてこの慣習が見られないのは，本来，チベット＝ビルマ語系民族の文化複合には含まれない要素と考えてよいのであろうか。他の項目との関係では，娘宿の存在と全く一致しない点が興味深い。また，その他の成年段階の慣習との共存もきわめて少ない。

しかし，初経時の幽閉の負の相関，すなわち両方とも存在しないというデータが確認できる場合を見ると，本大項目内では相関性の高い順に，娘宿，嚥下モチーフ，擬娩，集団的成年式，若者宿，産婦加熱，テクノニミー，坐産，竹刀となり，存在自体の少なさが負の相関を高めることを考慮しても，なお，娘宿並びにその他の成年段階の諸慣習との負の相関の高さを認めることができる。このことは，初経時の幽閉と娘宿や若者宿，あるいは集団的成年式は共存しないが，しかし一定の範囲の民族において補完的に分布する傾向があるのを示唆しているといえるのではないか。正の相関では，月経小屋（2113）や産小屋（2112）との関係が強く，当然のことながら，それらの慣習の背景としての経血や出産にたいする穢れの観念の存在が考えられる。